



被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ  
**東北こそだてレター (被災地の今...)**

2016/05/17 配信 vol.39

～東日本大震災から始まり熊本地震へ、支援は続く～

◆ 支援実績

<支援母子数>

・プロジェクト開始より累計 21,253 組 (2012/7～2016/04)

<活動場所>

- ・岩手 (大船渡、陸前高田、花巻、釜石、大槌、遠野、宮古、久慈)
- ・宮城 (石巻、東松島、女川、気仙沼、亶理、名取、仙台)
- ・福島 (いわき、相馬、南相馬)
- ・福島 (伊達、二本松、須賀川、白河、郡山、猪苗代町)
- ・新潟 (長岡)
- ・埼玉 (川越)・神奈川 (横浜)・東京 (中野)

<活動内容>

育児相談会/茶話会/ベビーマッサージ/ベビ体操/  
ママのリフレッシュ体操/親子ピクス/仮設巡回訪問

みなさま、こんにちは。 一般社団法人ジェスペールです。

熊本地震から一か月経ち、現地では避難者の数がピーク時の1割を切り、物資の不足がほぼ解消されているというのですが、まだまだ支援を求めている方も、課題も多いようです。

今回は、熊本地震の母子支援の続報と、ジェスペールに継続して寄付をしてくださる方のご紹介をご覧ください。

被災地での「これから」と「今」、そして「未来」。どうぞ最後まで、ご覧ください。

◆ 熊本地震後の母子支援について

<https://www.facebook.com/由来助産院-229667160568210/>

<http://www.yurai.org/>

前回のメルマガでご紹介した熊本の由来助産院が、『NGO マザー&アースくまもと』というボランティア団体を立ち上げました。

熊本地震で傷ついたママたちのこころを癒したいという思いで発足した団体で、5月5日に初企画、あおぞら心の声の会として「あおぞらヨガ」を開催したとのこと。

『NGO マザー&アースくまもと』には、県内外から結集した有志、助産師、保健師、看護師等々が由来助産院にボランティアで入っており、これから中・長期的に一緒に活動して下さる方の募集をしています。

ボランティアを希望される方がいらっしゃいましたら、メール、メッセージ、お電話で由来助産院にお問い合わせください。  
<http://www.yurai.org/>

ジェスペールは由来助産院に寄付を行いました。

また、こそだてシップとベビースマイル石巻が、熊本地震について募金を行いました。



由来助産院  
妊娠・出産サービス

タイムライン 基本データ 写真 レビュー

ベビースマイル石巻では、物資を乳幼児家庭へ、募金を地域の子育て支援拠点と由来助産院へ送っています。  
<http://ameblo.jp/hiroria7/entry-12155362656.html>

ジェスペールは今後も熊本地震への支援を続けていきます。

#### ◇◆由来助産院への寄付について

由来助産院への寄付金は、下記振込先へ。

##### ▼振込先

《熊本&九州のママと赤ちゃん震災復興支援金募金》  
三菱東京UFJ銀行 渋谷支店 0858064  
公益社団法人誕生学協会

皆さまのご協力を、よろしくお願いいたします。

#### ◆ 継続して寄付をしてくださる、ペニーさんのご紹介

東北被災地の妊産婦支援を続けている私たちジェスペールの活動に定期的に寄付をしてくださっているアメリカ人のペニーさんをご紹介します。

#### ◇◆ ペニーさんと出会ったきっかけ

ペニーさんは現在 60 代後半でアメリカのミシガン州アナーバーにお住まいです。  
夫は日本人でしたが現在は離婚されていて、日本とアメリカに別れて暮らしており、おひとり暮らしです。



2 人のお子さんがいらっしゃいますが、2006 年に、ご長男のコウヘイさんの奥さまハンナさんが 2 人目のお子さんを松が丘助産院(ジェスペール代表 宗が院長)でご出産されました。

ペニーさんはこよなく日本を愛していらっしゃいます。

そのためお孫さんが日本で生まれることをとても楽しみにしていて、ご出産の際にご家族のお世話をするため、しばらく日本に滞在されました。

その時にハンナさんの妊婦健診にも付き添い、家庭的な雰囲気でお産できる助産院の存在を、初めて知ったようです。ハンナさんの検診時に、私は覚えていないのですが、ペニーさんの足がむくんでいてそのケアもしたようです。そのこととても印象に残ったそうです。

その後ハンナさんはとてもご安産でご出産されて、助産院の和室でゆったりと過ごされました。

#### ◇◆ アメリカの出産事情

北アメリカには歴史的に助産婦という職種はありませんでした(近年、数は少ないのですが登場しています。また国家資格ではない形で助産師が登場しています)。

そのためアメリカではかなり早い時期からお産は医療の手で行われ、ペニーさんご自身は完全麻酔で生まれたそうです。ペニーさんのお母さんは子供が生まれるときは意識も全くなく、ペニーさんはダラーっとして生まれてきたとのこと。

また母乳よりもミルクのほうが衛生的だとか、量がはっきり分かったと言われて、全く母乳も飲んでいないそうです。

助産師がいないために産後のケアという概念もなく、生むときも誰かに付き添われることもなく女性はとてもつらい思いをします。

そのため痛みをとることが中心になり、痛みをのりこえとか、痛みと向き合うといった感覚はなかったとのこと。

ハンナさんが松が丘助産院でご出産されたときに、私たち(宗を含め助産師たち)が出産時の痛みを和らげるために寄り添い、様々なケアをする姿にとっても感動された様子でした。

#### ◇◆ペニーさんとのご縁がドゥーラ協会誕生につながった

アメリカに帰ったあと、この日本で出会った助産師の仕事を、日本の自然出産に取り組む様子を、是非アメリカに伝えたい、せめて自分の周りの人たちに伝えたいと、アナーバーに宗を招いてくださいました。

招かれたといて私の仕事はすぐに助産院を留守にすることは難しいので、丁重にお断りしていましたが、その呼びかけは3年に渡りました。

さすがに3年も続けて声をかけてくださる方には応じなければと感じ、2009年にアナーバーを訪れました。

そこでは私たち松が丘助産院のメンバーが(調理スタッフを含め3人で渡米しました)、自然のお産やケアについて現地の方々に伝えましたが、それだけではなく、私たちも多くの学びがありました。

それは助産師が非常に少ないために(以前は無かった助産師が非常に数は少ないが現在は存在します)、お産の場面で産婦に寄り添う産後ドゥーラが存在でした。

産後ドゥーラが、出産後も新しく赤ん坊を迎える家族に寄り添い手助けをしている活動を学ぶことができました。

この訪問がきっかけになり、現在のドゥーラ協会 <https://www.doulajapan.com> が存在します  
ドゥーラ協会の立ち上げを2010年开始し、2011年の3月11日、打ち合わせの最中に東日本大震災に遭いました。  
そのため、ドゥーラ協会設立に先立ち、現ジェスパールの前身である東京里帰りプロジェクトが立ち上がりました。

そしてペニーさんはその時から、ずっと私たちの活動を見守り、アナーバーから定期的に寄付をしてくださっています。  
このように遠くからも私たちの活動を見守っている方々が、フランスや香港にもいらっしゃいます。  
これからも私たちの活動や、日本の復興の様子をお伝えしていきたいと感じています。

#### ◆ プロジェクト応援のお願い

ジェスパールの「東北こそだてプロジェクト」は、被災地の母子を支援する助産師の活動を支援しています。

皆様からいただいた温かいご支援は活動の原動力となっています。

被災地の母子を今後も継続してサポートしていくため、妊産婦支援に関するお志を同じくするお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記サイトをご紹介ください。

<http://tohokumama.org/donation/>

また、皆様からの励ましのお声も、現地の助産師や被災地で子育て中のお母さん、ジェスパールメンバーの力になります。  
ご寄付いただく際に励ましのお言葉を添えていただいたり、当メールマガジンへのご感想などをお寄せください。



発行者：一般社団法人ジェスパール

公式ホームページ：<http://tohokumama.org/>

Twitter：<https://twitter.com/tohokumama>

お問い合わせ先：[info@tohokumama.org](mailto:info@tohokumama.org)

Facebook：<http://www.facebook.com/tohokumama>

